

《アオゲラ》

○学名：Picus awokera Temminck, 1826

○名目科名：キツツキ目キツツキ科

○全長：29cmくらい

○季節：通年

○分布：九州～本州

○環境：標高500m～2000mの密林



スジョウ
頭上から
コウトウ
後頭が赤い

(平成27年12月5日 場所：富士山遊歩道)



(平成27年11月22日)

ガクセン
顎線が赤い



(平成27年10月25日 場所：十里木別荘地)



木の幹を回りながらよじ登る
ので、^{ソワガンキョウ}双眼鏡やカメラは上
向けると良いよ！

♪さえずり：ピョーピョー

♪地鳴き：ジャツジャツジャツ

♪ドラミング：コロコロー

顔から首は灰色、背や翼の上部は黄緑色。腹には黒い縞模様があります。

木の幹にとまり、幹の周囲をくるくると回りながらよじ登ります。くちばしで樹皮の下や幹の隙間から昆虫を捕ったり、地上でアリを捕ったりします。細い枝やツルに止まって木の実を食べることもあります。

📷 富士山資料館周辺で観察できた場所

- ・十里木別荘地周辺
- ・富士山遊歩道周辺

《アカゲラ》

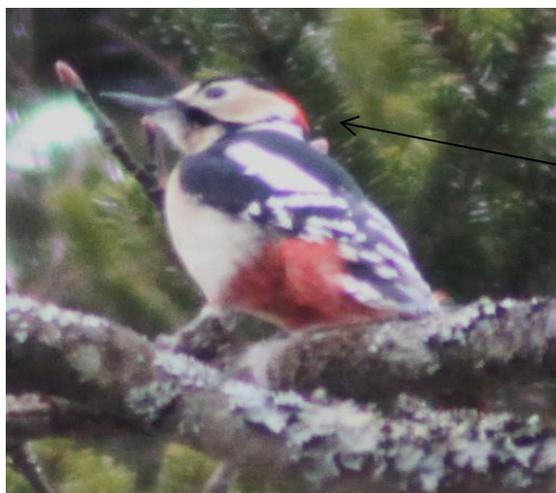
○学名： *Dendrocopos major hondoensis* Kuroda, 1921 ○名目科名：キツツキ目キツツキ科

○全長：24cmくらい

○季節：通年

○分布：本州～北海道

○環境：標高500m～2300mの森林



後頭が赤い



木の幹を回りながらよじ登るため、^{ソウガンキョウ}双眼鏡やカメラは上に向けると良いよ！

(平成28年2月7日 場所：十里木別荘地)



(平成27年11月23日 場所：富士山遊歩道)



(平成27年12月6日 場所：富士山遊歩道
ツルウメモドキ)

♪さえずり：ヒョーヒョー

♪地鳴き：ケツケツケツ

♪ドラミング：ド□□□ー

背から尾羽までは黒く、^{ショレツ カザキリ}初列風切にある^{ハクハン シマ モヨウ}白斑が縞模様になって見えます。

木の幹に縦に止まり、^{ミキ タテ}くちばしで木の皮や隙間をつついて昆虫を捕ったり、立ち枯れた木にくちばしで穴をあけ、^{スキマ}長い舌を出して中にある^ホ幼虫を掘り出したりして食べます。富士山麓では800mほどの^{サンロ}雑木林に見られます。

📍 富士山資料館周辺で観察できた場所

- ・十里木別荘地周辺
- ・富士山遊歩道周辺

《アトリ》

○学名： *Fringilla montifringilla* Linnaeus, 1758

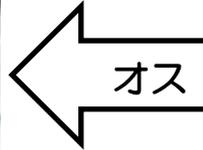
○名目科名：スズメ目アトリ科

○全長：16cmくらい

○季節：冬

○分布：九州～北海道

○環境：山地の雑木林



胸や腹のオレンジ色が濃い

地上にも降りるので
観察しやすいよ！



(平成27年2月18日 場所：富士山資料館前)



目先、耳雨、頬が灰色

胸や腹のオレンジ色が薄い



(平成27年2月18日 場所：富士山資料館前)



(平成27年2月18日)

♪さえずり：

♪地鳴き：

スズメより少し大きく、オレンジ色の胸と黄色いくちばしが特徴です。
群れで行動し、山頂が積雪すると山麓に降りてきて樹上や地上でえさを捜します。
植物の種子を好んでついでついでに食べます。

📷 富士山資料館周辺で観察できた場所
・富士山資料館前

《イカル》

○学名： *Eophona personata* Temmick&Schlegel, 1850

○名目科名：スズメ目アトリ科

○全長：23cm

○季節：通年

○分布：九州～北海道

○環境：標高800m～1200mの原生林



(平成27年11月29日 場所：富士山遊歩道ピオトープ周辺)



(平成28年2月9日場所：十里木別荘地)



(平成27年11月29日
場所：富士山遊歩道ピオトープ周辺)

♪さえずり：キコキー、キコキー

♪地鳴き：キョッキョッ

よく、ピオトープ周辺に群れ
で水を飲みに来ているよ！



オス・メス同色。頭上は黒く、灰色の体、黄色のくちばしが特徴です。

夏は山地の落葉広葉樹林の原生に生息し、秋冬には温暖地の低地から山地の林に群れで住みます。堅い木の实や種子をくちばしで割って食べます。

📷 富士山資料館周辺で観察できた場所

- ・富士山遊歩道周辺
- ・十里木別荘地周辺
- ・富士山資料館庭

《ウソ》

○学名： *Pyrrhula pyrrhula griseiventris* Lafresnaye, 1841

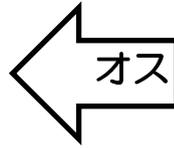
○名目科名：スズメ目アトリ科

○全長：16cmくらい

○季節：通年，冬

○分布：九州～北海道

○環境：標高中程度の山地や山麓の雑木林



頬からのどが赤い

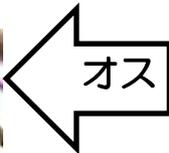
背や腹は灰色

(平成27年1月28日)



背や体の下面は茶色がかった灰色

(平成27年12月1日 場所：十里木別荘地)



頬の赤色が薄い

胸から腹がピンク色

(平成27年12月1日 場所：十里木別荘地)

(亜種アカウソ)

○学名： *Pyrrhula pyrrhula rosacea* Seebohm, 1882

樺太、朝鮮で繁殖し冬鳥として本州へ渡来します。

♪さえずり：ヒーヒーホー

♪地鳴き：フィーフィー



木の上でフィーフィーと地鳴きし、集団で木の実や種子を食べ
ているよ！

本州には11月頃に冬鳥として渡来します。夏は北海道の高山の針葉樹林で繁殖し、秋冬には山麓から山地の林に数羽の群れで住みます。植物の種子や木の芽を好んで食べます。

📍 富士山資料館周辺で観察できた場所

- ・十里木別荘地周辺
- ・富士山遊歩道周辺

《エナガ》

○学名： *Aegithalos caudatus trivirgatus* Temminck&Schlegel, 1848

○名目科名：スズメ目エナガ科

○全長：14cmくらい

○季節：通年

○分布：九州～北海道

○環境：低山～亜高山の森林



(平成27年11月27日
場所：富士山資料館駐車場隣)



(平成27年11月27日
場所：富士山資料館駐車場隣)



(平成26年5月6日)

♪さえずり：チーチーチー

♪地鳴き：ジュリジュリジュリ



群れで木から木へ移動しているの、見つけやすいよ!

体は小さく、全長の半分をしめる長い尾、白い頭に黒い過眼線が特徴です。群れを作る習性が強く、群れで林の中を移動して昆虫や植物の実を食べています。秋冬にはカラ類（ゴジュウカラ、シジュウカラ、コゲラ等）と混群を作ることもあります。

📷富士山資料館周辺で観察できた場所

- ・富士山資料館駐車場周辺
- ・富士山遊歩道周辺
- ・十里木別荘地周辺

《オオルリ》

○学名： *Cyanoptila cyanomelana cyanomelana* Temminck, 1828

○名目科名：スズメ目ヒタキ科

○全長：16cmくらい

○季節：夏

○分布：九州～北海道

○環境：標高1800m以下の落葉高樹林

若鳥

頭部と体の下面はメスに似ているが、背、翼、尾はオスに似て綺麗な青色をしている

※若鳥：第1回の換羽後、成長羽に生え換わるまでの時期。



全身茶褐色で、尾が少し赤褐色味がある

メス

(平成27年9月22日)

場所：十里木別荘地中央公園周辺電線)



美しい声が聞こえたら、
声の聞こえる方向の
高い木の周辺を捜してみ

♪さえずり：ピピピョーピピピョー

♪地鳴き：クックッ

夏鳥として、越冬地から4月下旬頃に渡来します。9月末頃まで観察できますが、富士山周辺では他の夏鳥に比べそれほど数は多くありません。昆虫類を主食としますが、木の実も食べます。繁殖中は縄張りを守るため見通しの良い樹冠に止まり美しい声でさえずります。

📷 富士山資料館周辺で観察できた場所
・十里木別荘地周辺

《カケス》

○学名： *Garrulus glandarius japonicus* Temminck&Schelegel, 1848

○名目科名：スズメ目カラス科

○全長：33cmくらい

○季節：通年

○分布：九州北部～本州

○環境：1600m以下の森林



(平成26年12月17日場所：富士山資料館庭)

黒色・水色・白色の順になった
アマオオイハネ
雨覆羽がよく目立つ

くちばしで^{シユヒ}樹皮を剥がしている様子
↓



(平成27年10月24日
場所：富士山資料館第2駐車場)



(平成26年12月17日場所：富士山資料館庭)



資料館の周辺でも2、3羽
の群れが、よく見られる
よ！

♪地鳴き：ジャージャー、ジャツジャツ

背中から腰まで茶褐色で白色の頭上には黒の^{ハンテン}斑点があり、目の回りと^{アゴ}顎は^{イロ}黒色です。黒色・水色・白色の順になった^{シマモヨウ}縞模様の^{アマオオイハネ}雨覆羽が特徴です。

雑食で、動植物ともに好んでついでみまます。特に木の実や昆虫をついでみ、^{シユヒ}樹皮の裏の^{スキマ}隙間に^{カク}隠す習性があります。

📷 富士山資料館周辺で観察できた場所

- ・富士山資料館庭
- ・富士山遊歩道周辺
- ・十里木別荘地周辺

《カシラダカ》

○学名： *Emberiza rustica latifascia* Portenko, 1930 ○名目科名：スズメ目ホオジロ科

○全長：15cmくらい

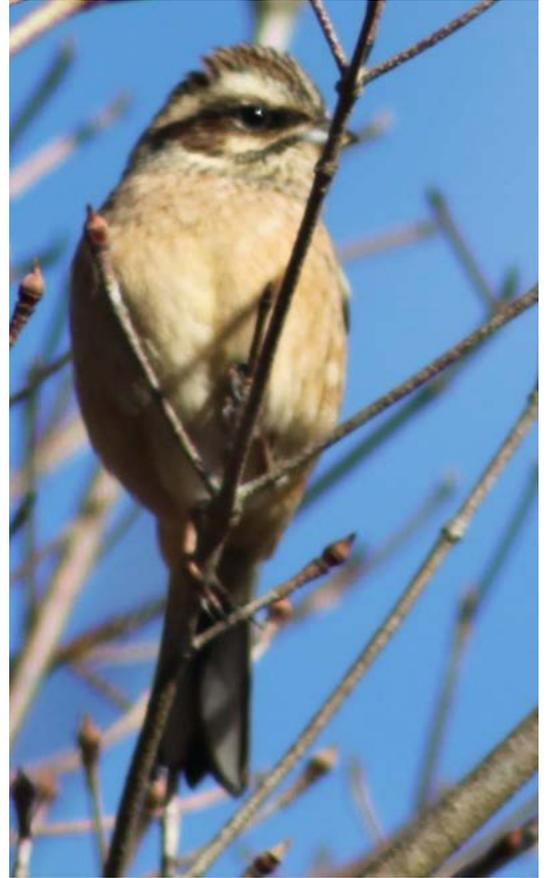
○季節：冬

○分布：全国

○環境：1500m以下の雑木林、草地



(平成28年1月28日 場所：富士山遊歩道)



(平成27年12月20日
場所：富士山遊歩道)



(平成27年12月3日 場所：十里木別荘地)

♪さえずり：ピピ・ピピ・ピィヨ

♪地鳴き：チチッ・チチッ



低木や草むらに群れて止まっているよ！

国内では冬鳥として10月～11月に渡来します。背から上尾筒はくり色で胸はクリーム色、腹は白色をしています。短い冠羽と白色の眉斑が特徴です。群棲してえさをあさり、雑草類を好んでついでついでにみまします。同時期に渡来するミヤマホオジロのメスとよく似ています。

📷富士山資料館周辺で観察できた場所

- ・富士山遊歩道周辺
- ・そば畑奥の林
- ・十里木別荘地周辺

★見分けるポイント★

ミヤマホオジロの眉斑は黄色味を帯びているので、眉斑に注目するとわかりやすいです。

《ガビチョウ》

○学名：*Garrulax canorus*

○名目科名：スズメ目チドリ科

○全長：25cmくらい

○季節：通年

○分布：

○環境：



(平成27年12月2日 場所：十里木別荘地中央公園周辺)



♪さえずり：

♪地鳴き：

資料館周辺にもよく小群
れでえさを捜しに来る
よ！

全身茶褐色で黄色いくちばしに、白の過眼線が特徴です。

中国南部、インドシナ、海南島、台湾に分布し、庭や植込みの森などに生息し、中国ではなじみのある鳥の一つです。ソウシチョウなどと共に移入し、外来種として問題視されています。

📍富士山資料館周辺で観察できた場所

- ・富士山資料館庭
- ・富士山遊歩道周辺
- ・十里木別荘地周辺

《カワラヒワ》

○学名： *Carduelis sinica* Linnaeus, 1766

○全長：14.5cmくらい

○分布：全国

○名目科名：スズメ目アトリ科

○季節：通年，冬

○環境：標高900m以下の落葉広葉樹林



(平成25年12月5日 場所：富士山遊歩道)



(平成27年12月23日 場所：富士山遊歩道)



尾の中央が鋭く凹むので、シルエット
だけでもわかりやすいです。



♪さえずり：ジューンジューン

♪地鳴き：キリリコロコロキリリコロコロ

体はオリーブ^{カッショク}褐色で、風切は黒褐色で基部は黄色です。くちばしはピンク色ですが、先は黒色^ミ味を帯びています。夏季はオスメスで生活し、冬季は小さな群れまたは大群^{タイクン}をなします。樹上や地上で木の実や種子などのえさを探します。特にヒマワリの種を好み、えさ場などに種を置くと器用^{カラ}に殻を割って中身を食べます。

📷 富士山資料館周辺で観察できた場所
・富士山遊歩道周辺

《キジバト》

○学名： *Streptopelia orientalis orientalis* Latham, 1790

○名目科名：ハト目ハト科

○全長：33cmくらい

○季節：通年

○分布：全国

○環境：標高1500mぐらゐの林



ケイガフ
頸側にはうろこ状の斑
ハン

(平成27年12月15日 場所：富士山資料館庭)



(平成27年10月7日 場所：富士山資料館庭)

よく、資料館庭にえさを
さが
探しにくるよ！



♪鳴き声：デデ・ポーポー

体は茶褐色を帯びた灰色で、雨覆は黒くオレンジ色と灰色の羽縁が特徴です。
地上を歩いて植物の果実を好んでついでむが、樹上で木の実を食べることもあります。
外来種のドバトは群れをなしますが、キジバトは単独又はつがいで行動します。

📍 富士山資料館周辺で観察できた場所

- ・富士山資料館庭
- ・十里木別荘地周辺

《キビタキ》

○学名： *Zanthopygia narcissina narcissina* Temminck, 1835

○名目科名：スズメ目ヒタキ科

○全長：13.5cmくらい

○季節：夏

○分布：全国

○環境：標高500m～1800mぐらいの森林



背から尾まで黒色



(平成27年10月15日 場所：十里木別荘地)

黄色の眉斑



(平成27年10月15日 場所：十里木別荘地)

メス

毛虫を捕って、樹上で枝にたたきつけて食べている写真だよ！



体はオリーブ褐色

各羽の外縁は赤褐色



(平成27年10月16日 場所：富士山資料館庭)

♪さえずり：ピッピピー、ヒョコピー

♪地鳴き：ヒヒ、ヒヒ

夏鳥として4月中旬から5月中旬頃に渡来します。オスメスまたは単独で生活しますが、家族群でいることもあります。樹上生活を基本とし、枝から枝に飛び移ります。枝に止まっているときは、じっとしています。昆虫類を主食としています。

- 📷 富士山資料館周辺で観察できた場所
- ・十里木別荘地中央公園周辺
 - ・富士山資料館庭
 - ・富士山遊歩道

《コガラ》

○学名： *Parus atricapillus restrictus* Hellmayr, 1900

○名目科名：スズメ目シジュウカラ科

○全長：12.5cmくらい

○季節：通年

○分布：九州～北海道

○環境：低山帯～亜高山帯の森林



(平成26年4月26日 場所：富士山資料館周辺)

ベレー帽を被っているように見える



足でヒマワリの種をおさえてついでに
ばんでいる様子

(平成27年12月9日 場所：十里木別荘地周辺)

♪さえずり：フィチーフィチー

♪地鳴き：チチッ、チチッ、ジャージャー

ルイ コンクン
カラ類の混群は資料館周辺でも、よく見られるよ！



頭とのは ^ム無光沢の ^{コウタク}黒色です。背より下は ^{ハイカッショク}灰褐色で ^{ムネ}胸は白色、 ^{ワキ}脇は ^{アフ}淡い ^{カッショク}灰褐色です。ヒガラとよく似ていますが、のどの黒い部分が、ヒガラよりも小さいです。繁殖期以外はヒガラ、シジュウカラなどのカラ類と混群をなしていることが多いです。樹上生活を ^{シュジョウ}中心とし、 ^{ミキ}幹や小枝をたたいて虫をついばみます。

📷 富士山資料館周辺で観察できた場所

- ・富士山資料館周辺
- ・十里木別荘地周辺
- ・富士山遊歩道周辺

《コゲラ》

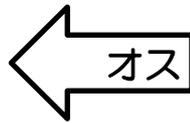
○学名： *Dendrocops kizuki nippon* Kuroda, 1922 ○名目科名：キツツキ目キツツキ科

○全長：15cmくらい

○季節：通年

○分布：全国

○環境：低い山や山麓の雑木林、落葉広葉樹林



後頭の両側に、赤色の小羽

(平成27年3月4日)

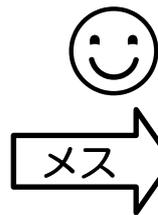
巣穴を作る様子



(平成27年11月22日
場所：富士山遊歩道)

♪地鳴き：ギィーギィー

♪ドラミング：カラカラカラ



(平成27年3月4日)

※ドラミング：主に繁殖期^{ハンショクキ}に行う求愛行動と考えられていますが、えさを探するときにも行うことがあります。

全身こげ茶色で、背から腰までは白色の横縞^{ヨコシマ}があります。樹上生活を中心とし、コガラ、シジュウカラなどのカラ類と混群^{コングン}をなしていることが多いです。昆虫類と植物の実を主食とし、木の幹^{ミキ}をくちばしでたたいて中の昆虫の幼虫をついばみます。

📍富士山資料館周辺で観察できた場所

- ・別荘地管理事務所駐車場周辺
- ・十里木別荘地周辺
- ・富士山資料館庭
- ・富士山遊歩道周辺

《コサメビタキ》

- 学名：Aseonax latirostris latirostris Raffles, 1822 ○名目科名：スズメ目ヒタキ科
○全長：13cmくらい ○季節：夏
○分布：九州～北海道 ○環境：標高500m～1300mの林



(平成27年10月07日 場所：須山口登山歩道ピオトープ周辺)

♪さえずり：

♪地鳴き：

木のてっぺんに止まって
鳴いているよ！

夏鳥として、4月頃に渡来する。頭から上尾筒まで灰褐色で、胸と腹は白色。目の周囲には幅狭い白い輪があり、胸には薄く縦斑がある。サメビタキ属3種（コサメビタキ・サメビタキ・イソビタキ）の中では最も小さい。

樹上生活を中心とし、樹梢に止まることが多い。

- 📍 富士山資料館周辺で観察できた場所
・十里木別荘地中央公園周辺

《ゴジュウカラ》

○学名： *Sitta europaea hondoensis* Buturlin, 1916

○名目科名：スズメ目ゴジュウカラ科

○全長：13.5cmくらい

○季節：通年

○分布：九州～北海道

○環境：低山体～亜高山帯の森林



(平成27年9月20日 場所：十里木別荘地周辺)



(平成27年10月20日)



(平成27年12月1日)

木の周囲をくるくる回りながらえさを探すよ！



♪さえずり：ピー、ピー、ピー

♪地鳴き：チュイチュイチュイ

頭上～上尾筒は青みがかった灰色、胸は白く下腹は淡い茶色です。黒色の過眼線の上には白く細い眉斑があります。繁殖を終えると、カラ類やキツツキ類と混群をなすことが多いです。木の幹に垂直に止まり、上下したり逆さになったりしてえさを探します。

📍富士山資料館周辺で観察できた場所

- ・十里木別荘地周辺
- ・富士山遊歩道周辺
- ・富士山資料館庭

《サメビタキ》

○学名：Hemichelidon sibirica sibirica Gmelin, 1788

○全長：13.5cmくらい

○分布：本州中部～北海道

○名目科名：スズメ目ヒタキ科

○季節：夏

○環境：亜高山帯の針葉樹林や針広混合林



(平成27年10月15日)

樹梢で止まっているときは、
じっとしていることが多い
よ!



(平成27年9月22日)

♪さえずり：

♪地鳴き：

夏鳥として、5月頃に渡来します。頭上から上尾筒まではすすけた灰褐色で、コサメビタキより褐色味が強いです。目の周囲は白く、胸には黒色の縦斑があり、腹は白いです。

樹上生活を中心とし、枯れた樹梢に止まる習性があります。

📍 富士山資料館周辺で観察できた場所
・十里木別荘地周辺

《シジュウカラ》

○学名： *Parus major minor* Temminck&Schlegel, 1848

○名目科名：スズメ目シジュウカラ科

○全長：14.5cmくらい

○季節：通年

○分布：全国

○環境：市街の林、低山帯・亜高山帯の森林



(平成27年2月21日)



のどから下腹にかけてある、ネクタイのような黒線が特徴です。



ヨウチョウ
幼鳥

頬や胸に黄色味がある

体の色が薄く、黒色の線が不明瞭

(平成27年8月27日 場所：富士山遊歩道)

♪さえずり：チューチューチィチィー

♪地鳴き：チュチーチュチー、ジユクジユク

富士山資料館庭の枝にも、よく遊びに来るよ！



頭上は光沢のある黒色で、白い頬が目立ちます。背から肩羽にかけて黄緑色を帯びています。繁殖期以外はカラ類と混群をなして森中を飛んでいることが多いです。昆虫類を好み、木の幹をくちばしてたたいて虫を探します。

📍富士山資料館周辺で観察できた場所

- ・富士山資料館庭
- ・富士山遊歩道周辺
- ・十里木別荘地周辺

《シメ》

○学名：*Coccothraustes coccothraustes japonicus* Temminck&Schelegel, 1850 ○名目科名：スズメ目アトリ科

○全長：18cmくらい

○季節：冬

○分布：九州～本州

○環境：標高800m以下の林



くちばしは太く、ピンク色

カエデやモミジの種子や落葉を好んでついばむよ。



(平成28年2月2日 場所：富士山資料館庭)



コウケイ
後頸は灰白色

(平成26年3月16日 場所：富士山資料館庭)



(平成26年3月16日 場所：富士山資料館庭)

♪さえずり：ツツツ、チッ、チッ

♪地鳴き：チチッ、チチッ

北海道で繁殖し、本州中部には冬鳥として10月頃渡来します。渡りの時期は小さな群れをなしますが、冬季は単独で行動するものが多いです。イカルの姿とよく似ていますが、イカルより太っていて、尾は短いです。種子や落葉などをついばみ、樹上だけでなく地上でもえさを探します。

📍富士山資料館周辺で観察できた場所
・富士山資料館庭

《ジョウビタキ》

○学名： *Phoenicurus aureus* Pallas, 1776

○名目科名：スズメ目ヒタキ科

○全長：14cmくらい

○季節：冬

○分布：全国

○環境：標高900m以下の平地や山地



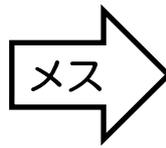
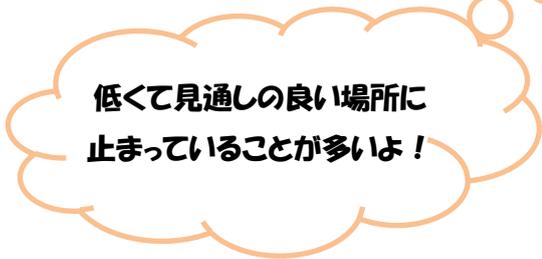
顔は黒く、頭上から後頸は灰白色



胸と腹はオレンジ色

(平成27年12月15日 場所：富士山遊歩道)

(平成28年1月17日 場所：富士山遊歩道)



体は灰褐色

下腹から尾羽はオレンジ色

(平成27年12月27日 場所：富士山遊歩道)

♪地鳴き：ヒッヒッヒッ，カッカッ（頭を下げ、尾羽を上下に振りながら鳴く）

冬鳥として10月下旬頃に渡来します。多くは単独で生活し樹上生活を中心とします。低木や電線などに止まり、ヒッヒッと澄んだ声で鳴き縄張りを主張します。長距離や空高く飛ぶことはまれで、短距離を低く飛びます。昆虫のほか、木の实なども食べます。

📷富士山資料館周辺で観察できた場所

- ・富士山遊歩道周辺
- ・富士山資料館庭

《ソウシチョウ》

○学名：*Leiothrix lutea*

○全長：15cmくらい

○分布：

○名目科名：スズメ目チドリ科

○季節：

○環境：



(平成27年9月1日
場所：十里木別荘地中央公園周辺)



(平成27年10月9日 場所：十里木別荘地中央公園周辺)



♪さえずり：

♪地鳴き：

体の上面はオリーブ色でのどは黄色く上胸はオレンジ色味を帯びている。はっきりと赤いくちばしが特徴。

ヒマラヤ、ミャンマー、ベトナム北部や中国に分布し、森林の下層部や茶畑に生息。中国や日本でも飼育鳥として広く飼育されている。

- 📷富士山資料館周辺で観察できた場所
- ・十里木別荘地周辺
 - ・須山口登山道周辺



《ツグミ》

○学名 : *Turdus naumanni eunomus* Temminck, 1830 ○名目科名 : スズメ目ヒタキ科

○全長 : 24cmくらい

○季節 : 冬

○分布 : 全国

○環境 : 標高1500m以下の落葉広葉樹林



(平成27年11月23日 場所：須山口登山歩道)



(平成28年1月31日 場所：須山口登山歩道)



カ
枯れ草や、木の枝が絡
みあっているところに
カク
隠れていたりするよ！

♪さえずり：キョッ、キョッ

♪地鳴き：クワッ、クワッ



(平成27年11月27日 場所：須山口登山歩道)

冬鳥として10月下旬～11月中旬頃までに渡来します。頭上から背は黒褐色で、目の上にはクリーム色の眉斑があります。胸と脇にある黒斑が特徴です。

渡りのときは数百羽～数千羽の大群ですが、生活は単独で行います。草を刈った場所や木の実の多い所などで多くみられます。

📷 富士山資料館周辺で観察できた場所

- ・須山口登山歩道周辺
- ・そば畑

《トビ》

○学名：*Milvus migrans lineatus* Gray,

○全長：オス58.5cm メス68.5cm

○分布：九州～北海道

○名目科名：ワシタカ目ワシタカ科

○季節：通年

○環境：海岸，標高800m以下の市街地，小沼



ハクハン
白斑

(平成27年12月10日 場所：演習場上空)



(平成27年12月6日 場所：演習場上空)

ゆっくり円を描くように帆翔し、
長時間飛んでいることが多い
よ!

※帆翔：上昇気流を利用し翼と尾を広げ
たまま旋回し、高度を上げる飛び方。

♪さえずり：ピーヒョ□□□□

体の色は暗褐色で、翼下面の翼先にある白斑が特徴です。翼を広げるとその長さは157～162cmほどになります。ワシタカ類で唯一凹尾を持つが広げると三角形、極度に広げると丸尾に見えます。トビは滑翔の時、翼の先の方が少し垂れ下がります。

📷 富士山資料館周辺で観察できた場所
・演習場上空

※凹尾：尾を閉じたときに、中央が凹んでいる尾のこと。

※丸尾：

※滑翔：羽ばたかないで、滑るように飛び飛び方

《ノスリ》

○学名：*Buteo buteo burmanicus* Hume

○名目科名：ワシタカ目ワシタカ科

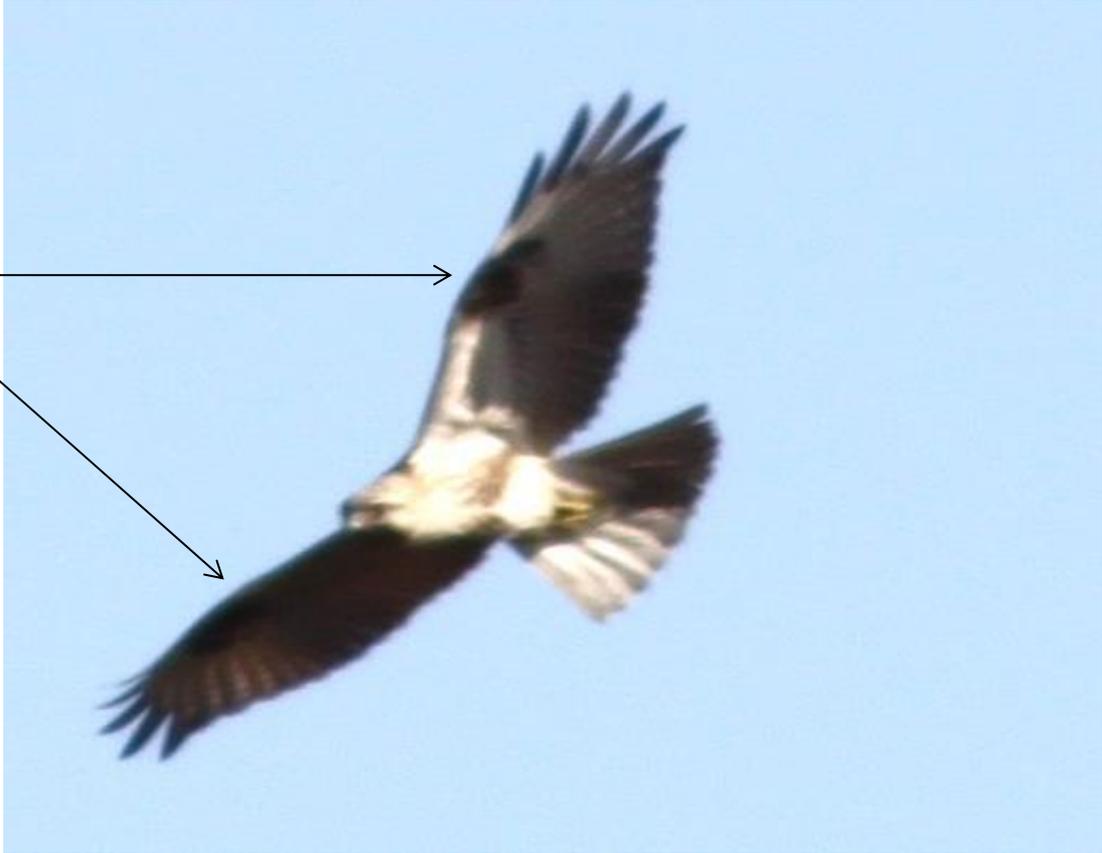
○全長：54cmくらい

○季節：通年

○分布：全国

○環境：山地の雑木林、落葉高樹林

黒斑



(平成27年12月15日 場所：演習場上空)

ゆっくりと羽ばたき、直線的に飛ぶよ！

♪さえずり：

♪地鳴き：

体は暗褐色で胸から腹はクリーム色味を帯びた白色です。翼下面は淡褐色で風切にある黒斑が特徴です。常に単独または、オスメスで生活します。帆翔時、翼が浅いV字形のように見えます。

📍富士山資料館周辺で観察できた場所
・演習場上空

《ハイタカ》

○学名： *Accipiter nisus* Linnaeus, 1758

○名目科名：タカ目タカ科

○全長：オス31.5cm メス39cm

○季節：冬

○分布：全国

○環境：山地、平地



尾は開いたとき横帯が4本見えるが、閉じたときは3本見える。

(平成27年12月4日 場所：演習場上空)

大きさや、翼先分離に注目して観察してみよう！

頬から腹にかけて橙色の横斑が密にある。



(平成27年12月4日 場所：演習場)

♪鳴き声：キィーキィキィキィ



※滑翔：羽ばたかないで、滑るように飛ぶ飛び方。

本州より北の山地で繁殖し、冬は全国的に見られます。大きさはキジバトぐらいで、メスはオスよりも大きいです。オオタカ、ハイタカ、ツミとよく似ていて、その識別に迷うことがあります。飛翔時、オオタカやツミより細身で尾が長く、スマートに感じます。飛び方は、羽ばたきと滑翔を繰り返すのが特徴です。

📍富士山資料館周辺で観察できた場所
・演習場周辺

《ハクセキレイ》

○学名： *Motacilla alba lugens* Gloger, 1829

○名目科名：スズメ目セキレイ科

○全長：21 cmくらい

○季節：冬、（通年）

○分布：九州～北海道

○環境：海岸、平地の水田、湿地



オスの冬羽は背が灰黒色

胸に三角形の黒斑



（平成27年1月20日 場所：富士山遊歩道）



1年目の冬羽のメスの若鳥は
顔が淡く黄色

中雨覆と大雨覆はわずかに白色



（平成26年9月12日 場所：富士山資料館グラウンド）

♪さえずり：フィチーフィチー

♪地鳴き：チュチュン、チュチュン

街でもよく見かけられる
野鳥で、あまり人を怖が
らないよ!



北海道には夏鳥として4月頃渡来し、本州から南には冬鳥として秋の9月頃渡来します。しかし、近年では冬以外でも見かけるようになってきています。地上でえさを探しながら、長い尾を上下に振って両足を交互にして歩みます。類似種にセグロセキレイがいますが、ハクセキレイより顔の黒色部分が多く、眉斑と腮は白色です。

- 📍 富士山資料館周辺で観察できた場所
- ・富士山資料館グラウンド
 - ・富士山遊歩道周辺

《ハシボトガラス》

○学名 : *Corvus leuillantii japonensis* Bonaparte, 1850

○名目科名 : スズメ目カラス科

○全長 : 56.5cmくらい

○季節 : 通年

○分布 : 九州～北海道

○環境 : 村落, 市街, 海岸, 耕地, 森林



額がでっぱっている

カラスを見つけたら、くちばしと額
を見てみよう!



(平成28年2月16日 場所: 富士山遊歩道)



くちばしは太く、^{ワシキョク}湾曲している

(平成28年2月16日 場所: 富士山遊歩道)

♪地鳴き: カァーカァーカァーカァー
(鳴くときにおじぎをするように頭を上げ下げる)

全身青色光沢のある黒色で額はでっぱっており、くちばしは太く^{ワシキョク}湾曲しています。雑食で^{ザツショク}ごみ箱をあさったり^{ツバサ}巣箱のふたをあけて、中にある小鳥の^{ヒナ}雛を^ア食い荒らしたりすることもあります。翼を体より高く浅く羽ばたいて、鳴きながら近距離を移動する飛び方はハシボソガラスには見られない飛び方です。

📷 富士山資料館周辺で観察できた場所

- ・富士山資料館庭
- ・そば畑
- ・富士山遊歩道周辺
- ・十里木別荘地周辺

《ハシボソガラス》

○学名： *Corvus corone orientalis* Eversmann, 1841

○名目科名：スズメ目カラス科

○全長：50cmくらい

○季節：通年

○分布：九州～北海道

○環境：村落，市街，海岸，耕地，森林



額がでっばらない

カラスを見つけたら、
くちばしと額を見て
みよう！



(平成27年11月29日 場所：そば畑)

くちばしは少し^{ワンキョク}湾曲している



(平成27年11月29日 場所：そば畑)

♪地鳴き：グワー、グワー、ぐワー
(鳴くときに腹部をふくらませ、尾を下げて広げる)

全身黒色で、くちばしから額にかけてでっばっていません。毎夕、一定の時刻に採食地からねぐらに帰る習性があります。

類似種^{ルイジ シュ}のハシブトガラスはくちばしが太く湾曲しており、額から頭にかけてでっばっています。

- 📍 富士山資料館周辺で観察できた場所
- ・富士山資料館庭
 - ・そば畑
 - ・富士山遊歩道周辺
 - ・十里木別荘地周辺

《ヒヨドリ》

○学名： *Microscelis amaurotis amaurotis* Temminck, 1830

○名目科名：スズメ目ヒヨドリ科

○全長：27.5cmくらい

○季節：通年

○分布：全国

○環境：低山帯の林，庭，公園



頭上は青味がかった灰色

(平成27年10月30日
場所：富士山遊歩道)



富士山資料館の庭に
ある、ウメモドキの実
を食べにくるよ！



(平成27年8月28日 場所：富士山資料館庭のウメモドキ)

♪さえずり：ピーヨピーヨ

※ホバリング：羽ばたきながら、
空中の一点に止まること。

※漿果^{シヨウカ}：果皮が肉質で、液汁^{エキシユウ}の多い果実。

夏季はオスメスで生活し、春秋の渡りの時には40～50羽～数百羽の群れを作ります。樹上^{ジュウ}生活を中心とし、地上に降りることはほとんどありません。飛ぶときには翼^{ツバサ}を羽ばたいては、体に羽をつけるという動作を繰り返して波形に飛びます。また、飛翔能力^{ヒシヨウ}が高くホバリングをして、ツバキやサクラなどの花の蜜^{ミツ}や水を飲むこともあります。花の蜜^{ミツ}を好みますが、果実や漿果^{シヨウカ}もついでに食べます。

📷 富士山資料館周辺で観察できた場所

- ・富士山資料館周辺
- ・富士山遊歩道周辺
- ・十里木別荘地周辺

《ビンズイ》

- 学名： *Anthus hogsoni hodgsoni* Richmond, 1907 ○名目科名：スズメ目セキレイ科
○全長：15.5cmくらい ○季節：通年
○分布：四国～北海道 ○環境：標高700m以上の草原や高原



クリーム色の^{ビハン}眉斑がある

目の後方にも小さな^{ハクハン}白斑がある

(平成26年3月22日)

地上では足を交互にし
て速足で歩くよ！



(平成27年10月21日 場所：富士山遊歩道)

♪さえずり：チチチチ、チチチョ

♪地鳴き：ツイーツイー

体は^{カクショク}緑褐色で、^{ビハン}眉斑はクリーム色です。体全体にある^{コクカクショク}黒褐色の^{ジュウハン}縦斑が特徴です。
地上でえさを探すが、^{ケイカイ}警戒すると飛び立って枝に止まり、枝上で^フ尾を上下に振ります。水浴を好み、山の湧き水や庭の池にもよく飛来します。

📷富士山資料館周辺で観察できた場所
・富士山遊歩道周辺

《ベニマシコ》

○学名 : *Uragus sibiricus sanguinolentus* Temminck&Schlegel, 1850

○名目科名 : スズメ目アトリ科

○全長 : 15cmくらい

○季節 : 冬

○分布 : 九州～本州

○環境 : 標高1000m以下の山地の草原、畑



オス

体はピンク色で、^{ツバサ}翼は黒い
^{チュウアマ オオイ}中雨覆には2本の白い帯がある

(平成28年1月31日 場所：富士山遊歩道)



(平成28年2月5日 場所：富士山遊歩道)



メス

(平成28年1月31日 場所：富士山遊歩道)

体は^{タン カッシュョク}淡褐色で、^{コッカッシュョク}黒褐色の縦斑がある

♪さえずり：フィッフィッ

♪地鳴き：ツチチチチ

ツルウメモドキの実を小さな群れでついばんでいる時の写真だよ!



冬鳥として10月下旬～11月中旬頃に渡来します。冬季は小さな群をなすことが多く、ムギ畑やソバ畑に集まります。低木の^{テイボク}茂みの間をくぐったり、^{シゲ}樹上や地上で^{ジュジョウ}えさを探します。オスは突き出した枝や、電線でさえずる習性があります。さえずりは、ウソに似たフィッフィッという声で鳴きます。

📷富士山資料館周辺で観察できた場所
・富士山遊歩道周辺

《ホオアカ》

○学名： *Emberiza fucata fucata* Pallas, 1776

○名目科名：スズメ目アトリ科

○全長：16cmくらい

○季節：本州の山地では夏、平地では冬

○分布：全国

○環境：山地の草原

ホオ セキカッショク
頬は赤褐色 ←



(平成27年8月20日)



ホオアカは低木
や、草の穂先に止
まるよ！

♪さえずり：

♪地鳴き：

スジョウ コウケイ
頭上から後頸は灰色で、体は栗色に黒色の縦斑がある。ホオ セキカッショク
頬は赤褐色で黒色の頬線が
あるのが特徴。

チジョウ ナツ コンチュウレイ フユ ザッソウ ルイ コノ
地上ではね歩きつつえさをあさり、夏は昆虫類、冬は雑草類を好んでついでむ。

📷資料館周辺で観測できた場所
・須山口登山歩道周辺

《ホオジロ》

○学名： *Emberiza cioides ciopsis* Bonaparte, 1850

○名目科名：スズメ目ホオジロ科

○全長：16.5cm

○季節：通年

○分布：全国

○環境：標高1600m以下の草原、雑木林



オス

ヒハン
眉斑は白色
カ ガンセン
過眼線が目立つ

(平成28年1月20日 場所：富士山遊歩道)



(平成26年6月19日)



ヒハン
眉斑はクリーム色
シウ ホオセン クリ
耳羽や頬線は栗色

(平成27年11月11日 場所：富士山遊歩道)

繁殖期のオスは木の枝、アンテナ、電線等に止まり胸を反らせてさえずる。



(平成28年1月20日 場所：富士山遊歩道)

♪さえずり：チョッチョチスチ

♪地鳴き：チッチッチン、チッチッチン

地上をはね歩きながらえさを探し、冬は雑草類をついばみますが、夏は昆虫やクモ等を主食とします。秋冬には数羽の群れで行動することが多いです。さえずる時は、灌木や木の枝、電線に止まります。

📍 富士山資料館周辺で観察できた場所

- ・富士山遊歩道周辺
- ・そば畑

《ミソサザイ》

○学名： *Troglodytes troglodytes fumigatus* Temminck, 1835 ○名目科名：スズメ目ミソサザイ科

○全長：10.5cmくらい

○季節：通年

○分布：九州～北海道

○環境：標高800m～1500mの灌木林や、森林



アツく、ハバの狭いセマヒハンがある

(平成27年10月24日 場所：十里木氷穴)

くちばしを上に向け、尾を立て体を反らしてさえずる



(平成27年10月24日 場所：十里木氷穴)



♪さえずり：チリリリリ、チリリリリ

♪地鳴き：チャッ、チャッ

体は小さいけれど、
大きな声でさえずるよ！

日本では最も小さな鳥の一つです。体は暗赤褐色で暗褐色の細かい横縞が数条あり、短い尾を上げている姿が特徴です。オスメスまたは単独で生活し、はね歩いてえさを探します。山地の湿った林で繁殖し、冬は山麓の溪流沿いの低木林や崖地に多いです。

📷富士山資料館周辺で観察できた場所
・十里木氷穴周辺

《ミヤマホオジロ》

○学名： *Emberiza elegans elegans* Temminck, 1835 ○名目科名：スズメ目ホオジロ科

○全長：15.5cmくらい

○季節：冬

○分布：九州～北海道

○環境：標高500m～1000mの山地



目の後方とのはどは黄色

目先から頬が黒い

胸には黒色の三角形斑

(平成27年11月27日 場所：富士山遊歩道)



(平成27年11月22日
場所：富士山遊歩道)



黄色の部分は淡い



(平成27年11月22日 場所：富士山遊歩道)

♪さえずり：ピピ、ピピ、ピィヨ

♪地鳴き：チッチッ

ススキなどの草むらに隠れて
いたいするよ!



冬鳥として11月頃に渡来します。単独または小さな群で生活し、タデやソバの種子などを地上で探します。カシラダカと似ていますが、カシラダカより冠羽は長く目の後方やのはどの黄色が目立ちます。

- 📍 富士山資料館周辺で観察できた場所
- ・須山口登山道周辺
 - ・十里木別荘地周辺

《ムクドリ》

○学名：*Spodiopsar cineracea* Temminck, 1832 ○名目科名：スズメ目ムクドリ科

○全長：24cmくらい

○季節：通年

○分布：九州～北海道

○環境：平野の耕地，公園，庭園

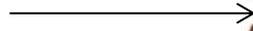


(平成26年3月21日)

カオ
顔に白い
ウモウ
羽毛がある



オ
尾は
ミジカ
短い



(平成27年2月20日)



マチシュウ タイグン
街中でも大群でモミヤ、
ラクヨウマツ サクラ
落葉松、桜に止まっている
よ！

♪さえずり：

♪地鳴き：

スズメやヒヨドリなどと同じように身近に見られる鳥。群れを作る習性が強く、大群でいることが多い。特に、畑地にある電線はよい休み場所で、一列に多数が並んで止まる。稲の切株に潜む害虫類を好んでついでついでに、晩秋から冬にかけて田んぼに群れる。

📍富士山資料館周辺で観察できた場所

《メジロ》

○学名： *Zosterops palpebrosa japonica* Temminck&Schlegel, 1848

○名目科名：スズメ目メジロ科

○全長：11.5cm

○季節：留鳥

○分布：九州～本州

○環境：標高700m～800mの林



ツルの^マ巻きついた高い木の
中に^{カク}隠れていたいするよ！

(平成26年3月21日)

目の周囲の白い輪が^{トクチョウ}特徴

のどは黄色く腹は白い



(平成27年10月7日 場所：十里木別荘地中央公園)

♪さえずり：チュチュチーチュチュチー

♪地鳴き：チーチー

黄緑色を^オ帯びていて美しい鳥ですが、林の中にいると目立ちません。夏はオスメスで生活し、それ以外は^ム群れで生活することが多いです。^{ジュジョウ}樹上生活を中心とし、枝移りしながらえさを探します。春にはツバキ、ウメ、サクラの花の^{ミツ}蜜を好んで吸い、秋には熟した柿をついばみます。小さくて軽いせいか、器用に細い枝に^スぶら下がるようにして蜜を吸うこともあります。

📷富士山資料館周辺で観察できた場所
・十里木別荘地周辺

《モズ》

○学名 : *Lanius bucephalus bucephalus* Temminck&Schelegel, 1844

○名目科名 : スズメ目モズ科

○全長 : 20cmくらい

○季節 : 通年

○分布 : 九州～北海道

○環境 : 標高800m前後の草原

太く黒い過眼線カガンセンがよく目立つ

くちばしは黒く、猛禽類モウキンのように下方に湾曲ワンキョクして鋭いスルド

※猛禽類モウキン : ワシやタカ等の、肉食の鳥。



(平成27年4月24日)



(平成26年5月2日
場所 : 富士山遊歩道)



メスには翼に、白斑ツバサがないハクハン

木の枝に止まって、
尾を上下左右に回す
ように振っているよ！



♪地鳴き : キリ、キリ、キキキ



(平成27年12月20日
場所 : 富士山遊歩道)

頭が大きく、尾は長め。頭は赤褐色セキカッショクで、太目の黒い過眼線カガンセンが特徴です。トクチョウ

生垣の尖った小枝やトゲなどに捕えた昆虫類コンチュウの獲物を突き刺す変わった習性があり、これを「モズの早贄ハヤニエ」といいます。

📍富士山資料館周辺で観察できた場所
・富士山遊歩道周辺

《ヤマガラ》

○学名： *Parus varius varius* Temminck&Schlegel, 1848

○名目科名：スズメ目シジュウカラ科

○全長：14cmくらい

○季節：通年

○分布：全国

○環境：標高1000m以下の山地



背と腹は茶褐色^{カッショク}
頭部は黒く、頬はクリーム色^{ホオ}

(平成27年10月28日 場所：十里木別荘地)



枝に止まり、えさを両足で押さえてつく

(平成27年10月2日)



(平成27年10月28日 場所：十里木別荘地)



富士山資料館の庭にもよく、混群^{コングン}でえさを求めてくるよ!

^{ハンショクキ}繁殖期はオスメスで生活しますが、その後はカラ類やキツツキ類と混群^{コングン}をなして生活します。樹上^{ジュジョウ}生活を中心とし、枝渡りしながらえさを探しますが、幹^{ミキ}をつついて、えさをついばむこともあります。とても人に馴れやすい鳥で、巣箱^{ネソ}やえさ場に種などをまくと常連^{ジョウレン}になることもあります。

📍 富士山資料館周辺で観察できた場所

- ・富士山資料館周辺
- ・富士山遊歩道周辺
- ・十里木別荘地周辺

《ルリビタキ》

○学名： *Tarsiger cyanurus cyanurus* Pallas, 1773

○名目科名：スズメ目ヒタキ科

○全長：14cmくらい

○季節：通年

○分布：全国

○環境：亜高山帯の針葉樹林



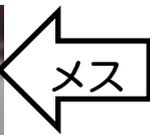
眉斑は目の前が白く、後方は淡い青色

(平成28年1月8日 場所：富士山遊歩道)

体の上面は綺麗な青色



(平成27年12月11日)



脇はオレンジ色

背はオリーブ褐色

腰から尾羽までは青色

(平成27年11月22日)

♪さえずり：ピョ□□，ピョ□□

♪地鳴き：ヒッヒッ，ヒッヒッ，カッ，カッ

警戒心が少ないので、運
が良ければ近寄ることが
できるよ！



オスメス又は単独で生活することが多く、群れることは少ないです。ジョウビタキのようにヒッヒッと地鳴きしますが、ルリビタキの方が間隔が短いです。時々カッカッと鳴いて、体をピョコリと下げると下生えの低木の中にあることが多いですが、さえずる時は木の枝に止まります。

📍富士山資料館周辺で観察できた場所

- ・十里木別荘地周辺
- ・富士山遊歩道周辺